

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590100550		
法人名	株式会社 ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター上北方		
所在地	宮崎県宮崎市大字上北方717-1		
自己評価作成日	平成25年4月30日	評価結果市町村受理日	平成25年7月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/45/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosvoCd=4590100550-00&PrefCd=45&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成25年5月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

食事に関して、ご利用者の食欲をそそる工夫をしています。お刺身は豪華に船盛にしてみたり、すきやきは普通の家庭と同じように食卓で、自分の好みで肉や野菜を鍋に投入して、自分のタイミングで食べるなど、食べる事への意欲を引き出せるようにしています。また、共同生活という特殊な環境に身をおかれているご入居の皆様が、気兼ねなく自分の居場所を見つける事ができるように、その日、その日のご利用者の体調や機嫌をしっかり観察して、柔軟に対応できるように職員一同こころがけております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

介護事業を全国展開している法人が、平成23年5月に開設したグループホームである。建物の1階は小規模多機能型居宅介護事業所で2階がグループホームになっている。「夢と希望と笑顔あふれるホーム」、「利用者、家族、地域に愛されるホーム」の理念の下、管理者および職員はいろいろな制限のある中で、利用者本位に日々のケアに努めている。経験が浅いホームではあるが、困難事例に関しては、利用者一人ひとりの生活歴や職歴等を大切にしながら一つ一つクリアしており、職員とともにこれからの成熟が期待されるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝9時にほほえみ理念を斉唱している	昨年5月に、管理者は職員等と話し合いをしてホーム独自の理念を作成している。理念は、「ほほえみのちかい」として、日々のケアの中で、利用者の話に傾聴しながら実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の清掃活動や行事には参加するようにしており、まずは職員が溶け込むように努力している	管理者は、地域住民にホームを理解してもらうために努力し、1年かけて自治会加入を実現している。地域の行事に参加しながら、交流の機会を多くする取組を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センターの主導のもとで、地域の他の事業所、民生委員、自治会長等に向けた勉強会に参加している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	初年度と比べると、地域の情報収集や、率直なアドバイスなどをいただけるようになってしていると実感している	運営推進会議を通じて、地域の消防団との連携が可能になり、協力体制ができている。会議の中で、過去の水害の情報を得て、食料等の備蓄を考える機会になるなど、ホームの運営に役立てている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	今年度は、認知症ネットワークケア推進研修会に参加を申し込んでおり、直面している課題の共有と解決に向けた話し合いが出来るかと期待している	市担当者には、介護保険や事故報告等について話をする機会があり、質問もよくしている。今年度は、認知症ネットワークケア推進研修会に参加することになっている。	ホームは開設して2年経過したところであるが、市担当者とは積極的に連絡を取って情報を共有し、もっと連携を深めることを期待したい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は自由に入出入りが出来るようになっており、職員の意識に対しても、定期的な勉強会を開いており、人権の尊重を理解している	身体拘束をしないケアについて、定期的に勉強会を開くなど、全職員が理解するように努めている。閉めると自動的に施錠する引き戸（出入口）には、鍵の部分をつさいで、施錠できないように工夫している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止については勉強会も開いており、理解をしている。また、ご利用者と馴染んでくると、言葉が乱れやすくなるので、職員同士で気付いたらすぐに指摘しあっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に成年後見制度を活用しているご利用者がいらっしや、勉強会での理解度があがった		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は1日で済ますことなく、必ず1日以上空けてご家族がじっくりと一読されてから、質問の受付等の時間をとり、納得されてから締結するようにしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	弊社独自に顧客満足度調査を毎年実施している。このアンケートは全国一斉に行い、個別に投函していただくので、職員が内容を見ることがないため、率直な意見が寄せられている	顧客満足度調査を毎年実施しており、家族等の意見を表せる機会になっている。意見や要望は、内容によっては行政に確認しながら、ホームの運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月業務ミーティングを開催しており、職員同士で忌憚なく意見交換しあっている	管理者は、月に1回会議を開いて、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。毎回ではないが、支社からの出席もある。管理者は、職員の意見等を反映させるために、ホーム内の工夫を重ねている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアアップという仕組みがあり、ステップ毎に職員の意識と技術の向上に見合った昇給制度がある		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修、外部研修は積極的に開催、受講できるようになっている。新人に対してのOJTは、社内では義務付けされている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症高齢者グループホーム連絡協議会に所属しており、研修会等には積極的に参加している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ホームへの入所にあたり、本当は自宅での暮らしを続けたいにもかかわらず、入所を決定されたご本人の心の痛みに寄り添うようにこころがけている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が、自宅での介護に限界を感じていても、本当はまだ頑張りたいと思っている気持ちに気付いて、ねぎらう態度をこころがけている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当社には家事代行サービスなど、施設職員だけでは賄えない事も補えるサービスがあることをお伝えしている。他にも出張床屋や出張マッサージの業者等々とも連携している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	全体的には、9名のご利用者に対して平等に接するため、個別に見つめる事に関しては担当者を配し、集中して見つめる中で気付いた事を、他の職員に情報提供しあっている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	あまり面会に来られないご家族には、定期的に電話やメールで近況を報告したり、郵送で済む書類を直接ご家族の手に渡すなど、工夫している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人、友人等の面会は歓迎している。そういった方々の面会後は、ご利用者が思い出話をいつも以上にくださるので、情報が一気に増え、馴染みの場所がわかると、ドライブで出かけたりする事もあった	管理者および職員は、利用者が知人、友人と交流する機会を大切にしており、関係継続の重要性を理解している。なじみの場所への外出や思い出話を聞くなど、支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	時々ではあるが、夕食後にご利用者だけで会議が行われる事がある。ご本人たちは自治会が開かれている感覚の様子であり、職員はオブザーバー的役割に徹して見守っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	例えば入院になった場合、ホームでの暮らしの情報を病院の看護師と連携室のSWIに細かに伝えている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	事例：夜中に夜食を食べたがる方がいらっしや、ご家族に確認した処、自宅では毎晩ラーメンを食べていたとの情報から夕食を少なめにして、夜中にミニラーメンを提供するようにしたら、夜間の睡眠時間が増えた	利用者の毎日の生活(夜間の行動を重視)の中で、一人ひとりの思いを把握するように努めている。利用者の生活歴や職歴を参考にし、センター方式(認知症の人のためのケアマネジメント方式)も部分的に取り入れ、職員間で話し合いながら意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事例：「帰る」というご利用者が、実は自宅ではなく子供の頃の家だという事をご家族から聞き、その頃の会話をすることで、落ちつかれるようになった		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	事例：食事は全介助だった方が、花瓶の花をむしって食べようとされた場面から職員が気づき、はっきりした色を必ず食事に加える様にしてから、自力摂取するようになり、最近箸も使えるようになった		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングは計画作成担当者だけでなく、各担当者も記入しており、毎月のカンファレンスで新たな介護計画の作成にリンクさせている	担当制を導入しており、モニタリングは各担当者も記入している。担当者の意見や本人、家族の意向を反映して、介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録には専門用語を使わず、ありのままを記入するようところがけており、計画作成担当者は必ず目を通し、介護計画の見直しに生かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	9名9様のニーズがあり、同法人内他事業所の協力を仰いだり、医療関係者との連携、ボランティアの要請など、一人ひとりのニーズに応じて行けるよう取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の祭りに出かけて行ったり、施設で行事を開催する時に、地域の方を招いて、お互いが顔見知りになっていけるようつとめている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医変更の意思があった方々は、内科の往診があり、薬剤師も同行している。また、希望時には歯科、精神科の往診もある。変更しない方には、家事代行サービスを利用して、通院を継続できるよう支援している	協力医療機関の内科医の往診、希望時には歯科、精神科の往診もあり、通院の場合は職員が付き添いをしている。協力医療機関以外への通院は、家族または家事代行サービスを利用することを原則にしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護師の健康チェックがあり、日々の状態を報告相談しており、また、異変に気付いた時には、24時間オンコール体制でフォローしてもらっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にご家族と同伴し、お互いに確認しあいながら、アナムネに答えるようにしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の事例は発生していないが、急変時の対応や終末期のあり方については、各ご家族の意思を事前に聞くようにしている	重度化した場合や終末のあり方について、契約時に説明し、利用者の状況が変化した場合は家族と話し合いをしながら、支援に取り組んでいる。ホームとして「できること」の体制が整い、内科医や訪問看護ステーションの協力も得られる状況にある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な勉強会や救急隊に出張講習にきてもらっている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域で開催される防災訓練に参加しており、地域の緊急連絡網に当事業所が記名されている。災害時の保存食や簡易トイレなども備蓄している	避難訓練は半年に1回実施し、夜間を想定した訓練も行っている。ホームが2階に位置しており、避難階段への出口を非常時の集場所と決め、向かいの民家に救助を求める体制になっている。食料や簡易トイレ等を備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	訪室する際には勝手に入らず、必ず承認を得てからにしている	職員が居室に入る際には、必ずノックをして了解を得るように徹底している。特に排せつや入浴の介助では、人格を尊重した対応をしている。研修にも人格の尊重とプライバシーの確保を取り入れている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	気持ちを言葉に出せない方には表情や態度を注意深く観察し、後手に回らず先手先手で、○○しますか？○○ですか？などと声をかけるように心がけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先にせず、ご利用者の状況に合わせて柔軟に行っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出張床屋で満足する方、昔から行きつけの床屋に行く方、髪染めを希望される方等々、それぞれの希望に合わせている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	事例：鍋物料理の時に、食卓に鍋と材料を揃え、ご利用者が自分たちで材料を投入していく課程があると、全員が完食された	食費を有効に使い、食卓でのすき焼きや時には刺身を豪華にしたり、飯茶わんを利用者の好みに合わせるなど、食生活が楽しくなるように支援している。また、職員は、利用者のペースに合わせた自立を促す支援を行っている。	利用者と職員と一緒に同じテーブルを囲んで、家庭的な雰囲気での食事ができるように期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分と食事の摂取量は24時間チェック表を用いて、管理している。不足がちな場合はまずは食器や好きな飲み物で工夫をこらし、それでも不足する場合は医師に相談し、代替食を処方してもらったりしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きのタイミングは一人ひとりに合わせており、介助が必要な方でもまずは自分で歯磨きをしていただいてから、スポンジで仕上げをさせていただいている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	事例：入所時はオムツで、排便も排便を毎回していた方が、日中はリハパンにかえて、トイレに座っていただくことで、自然排便するようになり、一度も排便はしていない(1人目)	トイレの位置を分かりやすく表示している。排せつ介助は人格を尊重した対応を心掛け、一人ひとりに合わせて自立に向けた支援を行っている。利用者の状況は、入居時に比べ改善している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	事例：入所時は、毎回排便でしか排便ができなかった方が、腹圧マッサージやオムツ使用をやめたことで、自分で力んで自然排便するようになった(2人目)		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	風呂の準備は、毎日出来るようにしている。毎日全員に入浴の意思を確認し、自発的に入浴される方に入浴をしていただいている。また、入浴されない方には、足浴など清潔の保持に努めている	入浴は毎日可能であり、利用者の希望に合わせて支援をしている。入浴した日には、表に○を付け、入浴の回数が少ない利用者には○を確認してもらい、入浴を促すために活用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転にとらわれず、24時間の中で睡眠がとれているかに注目するようにしているので、本人のペースで過ごしていただいている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情を毎回見ることが出来るよう工夫している。服薬のチェックは3重にして、誤薬や飲み忘れの防止に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに合った役割や楽しみを見つけようと日々模索している。気分転換の支援としては、その日その日の体調や天候も鑑みて工夫をするようにしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の外出は周囲の散歩にとどまるが、家事代行サービスや福祉バスを利用して、遠足などを行っている	日常的な外出は、周囲の散歩であるが、計画を立てて博物館見学や遠足に出掛けている。外出支援では、交通安全に配慮して、福祉バスや家事代行サービスを利用している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事例：押入れにお金を（千円程度だが）隠している事で、プライドを取り戻された方がいる		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は好きな時に使用していただいている。手紙は普段は面倒くさがるが、年賀状などは頑張って書いてくださった		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとにご利用者が作成した貼り絵を飾ったり、ご利用者が作成した日めくりカレンダーを飾ったりして工夫している	行事等の伝達事項は、大きな文字で紙に書いて見やすい場所に貼り、利用者と全職員が情報を共有できるように工夫している。テレビの音量、採光、温度等は、快適になるように配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓とは別に、ソファや籐の座椅子などを置いてあるので、2人や3人の小グループが所々にできて、会話を楽しんでいる		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	其々の部屋はご本人の個性が出ていて、みなさん、自分の部屋では落ち着いてすごされている	居室のベッドや家具は、利用者の意向を尊重して配置している。衣類の収納についても、本人の自宅での習慣を継続し、自由に生活できるように見守っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	事例：杖等、移動の為に福祉用具がない方に対しては、動線の途中に椅子やソファを配しており、常に掴まる物があるように工夫している		